

おかげさまで発刊150号

『霊宝館だより』は、
昭和57（1982）年
7月に創刊され、
43年目を迎えました。

霊宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第150号
令和7年4月1日発行
和歌山県伊都郡高野町高野山306
公益財団法人高野山文化財保存会
高野山霊宝館
電話0736-56-2029
URL <https://www.reihokan.or.jp>

利用案内

■開館時間 9時00分～17時00分
■休館日 年末年始
（展示替えに伴う臨時休館あり）
■拝観料 大人 1300円
高・大学生 800円
小・中学生 600円

■専用駐車場あり
高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。
（住所記載の証明書提示要）

重要文化財 金剛峯寺 孔雀堂・准胝堂・御影堂・根本大塔（手前・西から）
伽藍堂塔の建物の大きさが異なるのは、建立された時期、寄進者の寄付の内容、規模に応じて建立されたことによる。弘法大師空海は、大きさの異なる建物を、伽藍全体で調和を取り、一体感を持たせることをテーマとして伽藍の整備を進めた。

第150号 目次

- 重要文化財指定記念特別展のご案内 2～3
- 特集高野山 4～6
- 収蔵品の紹介119 7
- 高野山霊宝館からのお知らせ 8

重要文化財指定記念特別展 「大伽藍」

4月2日(水)～6月29日(日)
4月1日(火)は展示替えのため臨時休館します。

毎月21日（弘法大師の日）ご来館の方にプレゼントあり！

令和7年度 重要文化財指定記念特別展

「大伽藍」



重文 大日如来像 金剛峯寺【後期】



重文 大日如来坐像（西塔旧在） 金剛峯寺

令和7年4月2日(水)～6月29日(日)

前期 4月2日(水)～5月18日(日)

後期 5月20日(火)～6月29日(日)

会期中無休

4月1日(火)は、展示替えのため臨時休館します。

令和六年に高野山壇上伽藍（壇場伽藍／大伽藍）の諸堂が重要文化財に指定されました。壇上伽藍は、弘法大師空海（お大師さま）が開いた真言密教の世界を堂塔で表した、奥之院と並ぶ高野山の二大聖地です。壇上伽藍には多くの諸堂が建てられ、焼失と再興を繰り返し、現在の姿になりました。多くの僧侶や信仰する人々が、一二〇〇年の時を繋げてきた壇上伽藍の歴史と宝物の数々をぜひご覧ください。

主な展示品

彫刻

重文 大日如来坐像（西塔旧在）

金剛峯寺

重文 阿弥陀如来坐像（大会堂旧在）

金剛峯寺

宝冠釈迦如来坐像

金剛峯寺

絵画

国宝 善女龍王像

金剛峯寺【前期】

重文 弘法大師像

龍泉院【後期】

重文 大日如来像

金剛峯寺【後期】

真然僧正像

金剛峯寺



重文 厨子入金銅水神像 金剛峯寺



重文 阿弥陀如来坐像 (大会堂旧在) 金剛峯寺



国宝 善女龍王像 金剛峯寺 【前期】



重文 金銅五鈷鈴 (金銅仏具のうち)
金剛峯寺



高野山伽藍図 金剛峯寺



真然僧止像 金剛峯寺

- 高野山伽藍図
- 愛染明王像
- 弘法大師像
- 金剛峯寺
- 龍光院 【前期】

書跡

- 国宝 続宝簡集44「伽藍諸堂由来記」 金剛峯寺
- 国宝 又続宝簡集62「御影堂靈宝目錄」 金剛峯寺

- 重文 細字金光明最勝王經 金剛峯寺 【前後期展示替】
- 重文 紺紙金字一切経 (荒川経) 金剛峯寺 【前後期展示替】
- 重文 即身成仏品 金剛峯寺 【前期】

工芸

- 重文 厨子入金銅水神像 金剛峯寺
- 重文 金銅仏具のうち独鈷杵、三鈷杵、五鈷鈴 金剛峯寺

歴史資料

- 重文 高野版板木 金剛峯寺 【後期】

建造物資料

- 根本大塔心柱破損部材 金剛峯寺

※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。
◎期間中、一部展示替えを行います。

今後の展覧会予定

第45回大宝蔵展
「高野山の名宝」(予定)

令和7年7月5日(土)～10月5日(日)

特集 高野山

石に刻まれた歴史を光で読み解く「ひかり拓本」の魅力

奈良国立文化財研究所 研究員 上 栢 英之

はじめに

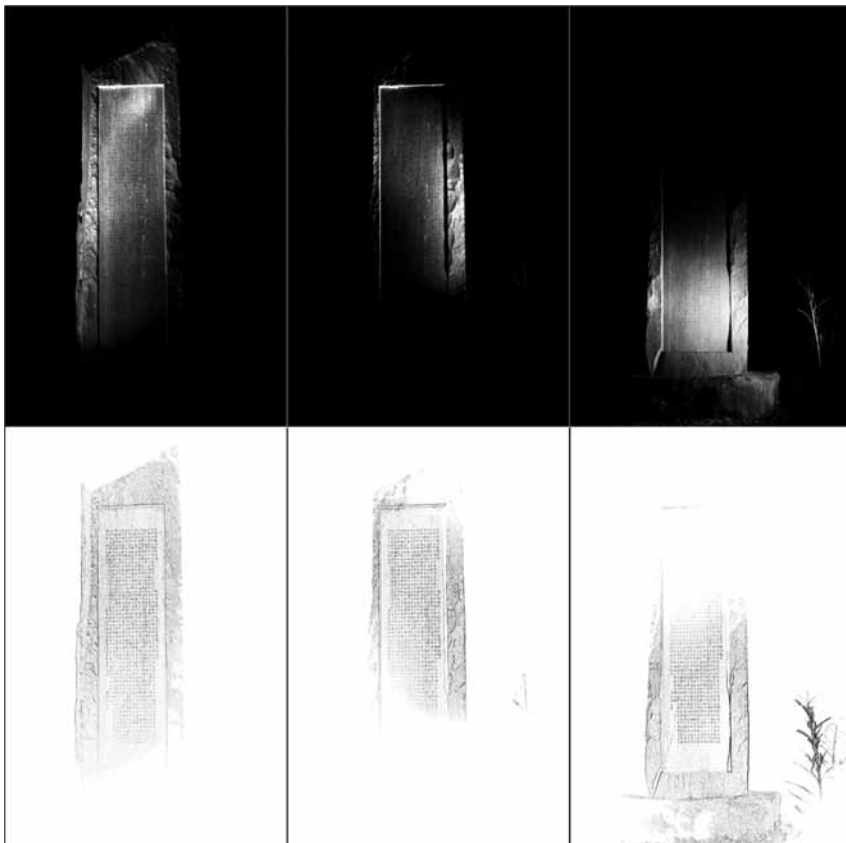
石に刻まれた文字、いわゆる銘文は、昔から私たちに大切な情報を伝えてくれる存在です。これまで、その情報を残す方法として「拓本」が使われてきました。拓本とは、紙と墨を使って石の表面をこすり、文字や模様を写し取る技術です。とても優れた方法で、できた拓本をすぐに見られるので、研究する人にとって便利です。ただ、慣れるまで時間がかかったり、石に直接触れるので汚してしまう心配があったりします。

最近では、触れずに石を調べる新しい技術も増えてきました。例えば、カメラで撮った写真から立体的な形を作る方法や、レーザーを使って距離を測る技術が登場しています。スマートフォンにもそんな機能が搭載

され始めていて、驚くほど進化しています。そんな中、私が今回紹介するのは「ひかり拓本」という技術です。これは、昔ながらの方法と最新の画像処理を組み合わせたもので、特に石の文字を素早く、はっきりと見ることを目的にしています。

①「ひかり拓本」って何？

石の表面にある凹凸を簡単に見たいとき、昔から「側光法」という方法が使われてきました。これは、石に斜めから光を当てて、影を作り、その影で凹凸を分かりやすくするやり方です。文化財の写真をとるときにもよく使われています。「ひかり拓本」は、この側光法をもとにした技術です。斜めから光を当てて撮った写真から影を取り出し、いくつか



上段：石造物の銘文に各方向から光を当てた様子
下段：上段の写真を画像処理した様子

の影を重ねて一枚の画像にします。石の文字はたいいてい凹んで彫られているので、影がそのまま文字の形になることが多いです。これを利用して、まるで拓本のような画像を作り出すのです。

(2) どうやって撮るのですか？

必要なものは、ひかり拓本アプリを入れたスマートフォン、三脚、ハンディライト、だけです。特別な機械は要りません。撮影の流れはこんな感じです。

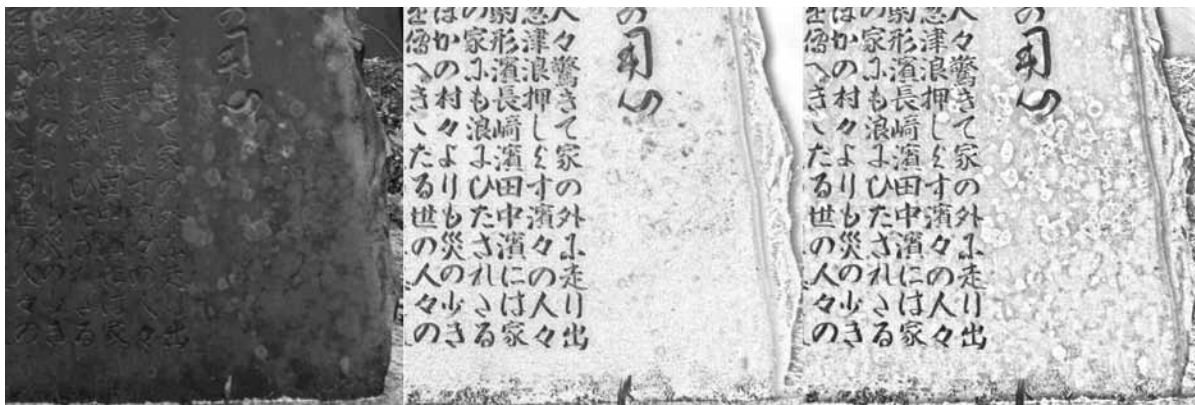
まず、スマートフォンに「ひかり拓本」アプリを入れておきます。現地ではスマートフォンを三脚に固定し、片手にライトを持って石に斜めから光を当てます。もう片方の手でリモコンシャッターを切ったり、インターバル撮影機能を使って自動で撮影します。いろんな角度から何枚か撮ったら、アプリが処理してくれます。光の角度は記録せず、目で見て「これがいいな」と思う位置で撮るので、とても簡単です。

手順をまとめると、次のようになります。

1. スマートフォンを三脚でしっかりと固定します。
2. 最初に影の無い(光を当てない)写真を撮ります。
3. ライトで斜めから光を当てます。
4. リモコンやソフトでシャッターを切ります。
5. 光の角度を変えながら、何度か繰り返しします。
6. アプリが自動で処理します。
7. 出来上がりをチェックして、文字がぼやけていたら追加で撮り直します。
8. 満足したら完成です

(3) 画像をどうやって処理するのですか？

「ひかり拓本」は、スマートフォンカメラを使用して撮影する「撮影して拓本」モードと、スマートフォンの中に保存されている画像を使用する「選択して拓本」モードがあります。撮影する時、最初の一枚目の画像を「背景画像」と呼んでいます。光を当てない状態で撮った写真のこ



左：処理前通常撮影画像

中：処理後（背景画像有）

右：処理後（背景画像無）



太さで影を拓本するが選別する

とです。これがあると、石の色や苔の影響を減らして、凹凸だけをはっきり見られます。もし背景画像がない場合や暗すぎる場合は、それなしでも処理できますが、場合によっては見づらくなることもあります。

この背景画像を使うかどうか、背景画像を撮影するときにわざと光を正面から当てるか、拓本を作成する時、影だけではなく明るく反射した部分も使うか、拓本にする影を影の太さで選別するかなど、いくつかの設定を変えることで色んな状況に対応できます。

(4) 実際の例を見てみましょう

和歌山県にある「町石廿三町」という石碑を例に挙げます。全長五メートルほどの大きな石です。日光で影ができている場合(下図A)と、フラッシュを使った場合(下図C)で比べてみると、背景の影が結果に大きく影響することが分かります。大きな石を撮るときは、日光が強いと光が届かない部分が出るため(下図B)、強いライトを使ったり、夕方に撮ったりするときれいに仕上がります(下図D)。



A

B

C

D

おわりに

「ひかり拓本」は、カメラを固定して撮るシンプルで、工夫次第でいろんな石に対応できます。丸い石や、複数の石を一度に撮りたいときも、アイデアがあれば挑戦できるんです。石に刻まれた歴史を、光を使って優しく読み解くこの技術、ぜひ多くの人に知ってほしいです。

【編集後記】

『霊宝館だより』第144号(令和5年10月9日発行)の「高野山町石の調査(1)」(滋賀県立大学 佐藤亜聖氏、兵庫県立大学 先山徹氏)、『同』第146号(令和6年4月14日発行)の「鎌倉幕府と高野山町石の建立」(東京大学史料編纂所 菊地大樹氏)、『同』第148号(令和6年10月14日発行)の「全国に広がる町石」(堺市博物館 海邊博史氏)、『同』第150号(令和7年4月1日発行)の「石に刻まれた歴史を光で読み解く「ひかり拓本」の魅力」(奈良国立文化財研究所 上相英之氏)、以上4編は、最新の高野山町石の調査研究の成果を5人の研究者の先生方に、新たな知見や調査研究方法をわかりやすくご紹介いただきました。ご著文を通じて、普段わたしたちが目には見えない高野山町石の魅力を知り、興味を持っていただけましたら幸いです。

収蔵品の紹介 119

根本大塔心柱破損部材

金剛峯寺 江戸時代

高さ324.0 cm

高野山は開創から約一二〇〇年の歴史を誇りますが、その歴史は火災と復興の繰り返しでした。その中でも壇上(場)伽藍の諸堂は火災による焼失が顕著です。特に根本大塔は、周囲より一際高く、落雷により

火災が発生することがあったようです。

今回紹介する「根本大塔心柱破損部材」は、江戸時代の根本大塔の心柱の一部です。裏面には墨書があり、それによると、延享三年(一七四六)

六月二十七日夕刻、大塔に雷が落ち、心柱のみ破裂、大塔の上にある二重九輪(塔の頂上部、露盤上の柱にある九つの輪)などは無事であったことがわかります。心柱は、仏塔などの中心となる柱なので、破損によ



根本大塔心柱破損部材

墨書銘

墨書銘翻刻

寺務櫻池院傳普之時年預寂静院快融年預代日光院英信智秀房
大塔心柱之欠 延享三丙寅年六月廿七日酉之刻

雷雨宇二重九輪等無別儀心柱而已破裂

り大塔が崩壊する恐れがありましたが、何とか崩壊は免れたようです。

江戸時代の高野山の出来事を記した日記『日並記』にも、この落雷について記述があります。そこには、大塔をはじめ伽藍の諸堂が無事であったことが記されています。また、高野山の僧侶たちは「伽藍の諸堂が無事だったのは、金剛界・胎藏界の諸尊、諸天、諸善神、三地大士、四社明神が守護してくれたおかげである」と涙を流して感じ入り、感謝の意を込め、大塔において大般若経の転読を行いました。この心柱に墨書が記され、現在まで残されたのもこうした感謝の気持ちからではないでしょうか。

現在の根本大塔は六代目で、昭和十一(一九三六)年に建立、令和六年(二〇二四)に重要文化財に指定されました。古くから信仰の対象として、何度焼失しても現在まで再興し続けられてきた根本大塔。今回紹介した収蔵品は、美しくも、珍しくもない木片かもしれませんが、そんな根本大塔の古くから受け継がれてきた歴史や人々の思いを表現した重要な文化財だと思います。

(研谷 昌志)

高野山霊宝館からのお知らせ

◎令和7年度国庫補助事業

重要文化財（建造物）

金剛峯寺山王院本殿丹生明神社ほか2棟保存修理事業

（2カ年事業のうち2カ年目）

事業費 57,000,000円

●国宝 絹本着色阿弥陀聖衆来迎図

美術工芸品保存修理事業

（5カ年事業のうち5カ年目・「紡くプロジェクト」対象）

事業費 13,222,000円

●国宝 木造八大童子立像 ほか1件

美術工芸品保存修理事業

（3カ年事業のうち1カ年目・「紡くプロジェクト」対象）

事業費 7,290,500円

●重要文化財 木造十一面千手観音立像

美術工芸品保存修理事業

（1カ年事業）

事業費 3,520,000円

◎展覧会予定

○第45回大宝蔵展「高野山の名宝」

7月5日(土)～10月5日(日)

(国宝) 仏涅槃図 金剛峯寺

(重文) 紙胎花蝶蒔絵念珠箱 金剛峯寺

(重文) 蓮華形柄香炉 龍光院

○秋期企画展

「奥之院

～弘法大師信仰の始まりと広がり～

10月11日(土)

令和8年1月12日(月)・(祝)

(国宝) 宝簡集・続宝簡集・又続宝簡集 金剛峯寺

令和8年1月12日(月)・(祝)

令和8年1月12日(月)・(祝)

(重文) 高野山奥之院出土遺物 金剛峯寺

(重文) 南保又二郎納骨遺品 金剛峯寺

○冬期平常展

「密教の美術

～しあわせのカウント～」

令和8年1月17日(土)～4月12日(日)

(重文) 八字文殊曼荼羅図 正智院

(重文) 八宗論大日如来像 善集院

(未指定) 銀製群雀七宝花瓶 金剛峯寺

(未指定) 銀製群雀七宝花瓶 金剛峯寺

◎ミュージアム法話(予定)

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説を、左記のとおり開催予定をいたしております。)

5月17日(土)・6月7日(土)・

7月12日(土)・8月2日(土)・

9月6日(土)・10月18日(土)・

11月8日(土)

いずれも午後1時より約45分

◎貸出情報

●山梨県立博物館

開館20周年記念特別展

「武田勝頼

～日本に隠れなき弓取～」

3月15日(土)～5月6日(火)・(祝)

(未指定) 武田勝頼妻子像 持明院

(未指定) 武田勝頼書状 成慶院

●奈良国立博物館

開館130年記念特別展

「超国宝～祈りのかげやき～」

4月19日(土)～6月15日(日)

(国宝) 澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 金剛峯寺

(国宝) 紺紙金銀字一切経(中尊寺経) 金剛峯寺

(国宝) 勤操僧正像 普門院

〈開館時間変更のお知らせ〉

令和7年4月2日から開館時間が下記のとおり変更となります。ご了承ください。

通年 9:00～17:00

(入館受付 16:30まで)

※ 年末年始・その他臨時休館あり

友の会 会員募集

〈年会費〉

一般会員(個人) 3,000円

賛助会員(法人) 30,000円

キャッシュレス決済手続きが可能となります。入会希望の方は下記から申し込みいただくか、霊宝館までお問い合わせください。

会費ペイ会員登録用URL・QRコード

https://www.kaihipay.jp/forms?form_code=9807367488232707



◎空海・密教を自宅で学べる『高野山大学 社会人向けコース』

高野山大学では、社会人の皆さまの人生のさらなる学びを応援するため、オンラインで受講可能な密教文化コースを開設しております。

空海、マンダラ、お遍路、歴史など幅広い学びを、続けやすい学費にてご案内しております。詳細は大学HP、またはお電話にてご相談ください。



大学 HP QRコード